

えむぞুকん健康川柳大賞、漫画原作大賞、レシピ大賞 授賞式レポート

「レベルが上がっている」。
審査委員を悩ませ、楽しませる、
すばらしい作品の数々

はじめに

2013年11月22日、株式会社LEOC本社(東京都)で株式会社ドクターズプラザとNPO法人日本医学交流協会医療団主催、「第7回えむぞুকん健康川柳大賞」、「第6回えむぞুকん健康漫画原作大賞」、「第4回えむぞুকん健康レシピ大賞」の各賞授賞式が行われました。

今回は、病院や施設、企業や学校などのフードサービスを手掛けておられる、株式会社LEOC様のご厚意により、会場および懇親会の料理を多数ご提供いただきました。またレシピ大賞の受賞作品をその場で味わうこともできました。

懇親会では、月刊ドクターズプラザの健康インタビューに登場していただいた三遊亭遊馬師匠の落語、えむぞুকんのテーマソング「元気わくわく」の作曲と唄を担当してくださっている中村友美さんのミニミニライブも行われ、会場は笑いと温かな雰囲気になりました。

選考に当たってくださった先生方の講評と、大賞受賞者の喜びの声をお伝えします。



授賞式会場



LEOCオリジナルメニュー
(オードブルバリエ: LEOCピンチョイス)



えむぞুকんのテーマソング
「元気わくわく」を唄う中村友美さん

◀ 当日のメニュー



懇親会



三遊亭遊馬師匠

懇親会で出された料理の数々(上:シーザーサラダ/左下:大山鶏のヘルシー唐揚げ/右下:創作串揚げ)

第七回 えむぞうくん健康川柳大賞

(3521作品)

「第7回 えむぞうくん健康川柳大賞」には、3521作品という多数の応募をいただき、佳作25作品、特別賞1作品、優秀賞3作品、そして大賞1作品が選ばれました。



健康川柳大賞 審査委員長 江畑哲男先生の講評 (全日本川柳協会常任幹事)

受賞者のみなさま、大変おめでとうございます。年々レベルが高くなり、応募作品の数も多くなっています。今年の特徴としては、非常に若い方の応募が非常に増えました。大賞の中学生の作品は、授業の10分間の中で作ったにしては「質」がすごく高い。何回も訓練しているのだらうと思いますが、その成果がみられる作品でした。ぜひ味わってください。

川柳というと、おもしろおかしく作ればいいという誤解があるようですが、川柳は「上質のユーモア」です。その点では、本日出席してくださっている優秀賞の「わたくしの主治医でもある腹時計」。自然が一番、朝起きて働いて、そのうち腹が減る。そういうことを巧まぬユーモアで表現してくれました。もうお一人出席してくださっている優秀賞の「身勝手のツケは自分に倍返し」。

川柳の魅力の一つは、いま流行っている言葉をすぐとり入れられることです。

今回も、本当にすばらしい作品に巡り合えて私も幸せです。

● 優秀賞

わたくしの主治医でもある腹時計
通院の朝念入りに化粧する
身勝手のツケは自分に倍返し

高瀬霜石さん(青森県)
瀬尾恵子さん(栃木県)
南部好枝さん(宮城県)

● 特別賞

検査では肝臓だけが悪くない

京増京介さん(千葉県)

● 佳作

恋をして胸の内から若返る
おはようと五臓六腑に声を掛け
元気ねといわれ元気な顔をする
富士登頂太陽おぶって下山して
健康が気になるマツコデラックス
あの頃のふたりに戻るサポーター
患者には怖く感じる専門用語
主治医から笑顔の処方して貰い
悩む胃と食べる胃二つ持っている
体操のリズムで朝が動き出し
新品と交換したい私の胃
健康を絵にしたような大笑い
検査値でちがって見える街景色
胃カメラを待つ人々に会話なし
生かされて天に感謝の手術跡
健康の二文字に弱いテレショップ
並ばれて大股になるウォーキング
完治無理だましだましのメンテナンス
入院にどっと時間を手に入れる
病気でもいいこともある家族愛
ダイエット欲を食べるとリバウンド
サプリよりごはんのほうがおいしいよ
ちょっとだけぼっちゃりしてても
カワイイじゃん
朝ごはん食べなきゃ犬も動けない
そとあそび元気にやろうあせだくて

すこやか太郎さん(兵庫県)
門脇かずおさん(鳥取県)
泉谷敏夫さん(大阪府)
舟橋優香さん(茨城県)
しむらむしさん(愛知県)
数井富美子さん(岡山県)
大野弘之さん(静岡県)
伊藤正美さん(群馬県)
三吉誠さん(福岡県)
明人さん(千葉県)
大塚葉子さん(福岡県)
原峻一郎さん(佐賀県)
少林寺さん(群馬県)
ヒポクラテスさん(神奈川県)
甌三郎さん(熊本県)
神馬せつをさん(石川県)
中川卓二さん(福井県)
前田浩二さん(兵庫県)
松下弘美さん(兵庫県)
塩田彩音さん(大阪府)
八住悠太さん(東京都)
山木香凜さん(東京都)
水野遥さん(東京都)
宮川佳大さん(東京都)
山本大輝さん(山口県)



やべ たいが

矢部太賀さんのコメント

(江東区立深川第四中学校)

「健康のコマを回して明日が来る」

まさか受賞できるとは思ってなかったので驚きました。とてもうれしいです。

昔見た、食事の栄養のバランスがコマで表現されたポスターを思い出したので、それを思い浮かべながらこの作品を創りました。僕は、「当たり前こそが健康、でも健康が当たり前ではない」と思っています。健康は回っているコマのように不安定で、ちょっとした衝撃で倒れてしまう。その不安定なコマは、当たり前前の行動の末に生まれる健康であり、同時に当たり前ではない健康そのものだと思います。

川柳の楽しさは、言葉を文化のリズムに乗せて創り上げることですね。小学校のころにも作ったことがあります。中学に入ってから国語の授業で創るようになったので、川柳や俳句の作品数はおそらく100を超えていると思います。でも日本の良い文化だと感じたのはつい最近のことです。作品を考えると、あまり客観的に見過ぎると自分の言いたいことが表現しにくくなるので、自分を中心に考え、自分が満足するような作品に仕上げることが心掛けています。

今回は、言葉が持つ深いところにある意味を活かして、もっとクオリティの高い作品にチャレンジしたいと思っています。



健康川柳大賞受賞者と関係者の皆さん

■江東区立深川第四中学校は、毎年多くの生徒さんが応募してくださっています。指導しておられる菅明男(すげあきお)先生は、「こういうコンクールには、生徒たちは熱心に応募しています。川柳は、国語の授業の終わり10分間だけを使って作っています。ですから、佳作を受賞した4作品、大賞の1作品とも、10分間で作ったものです。1年生の時から毎年応募していて、やっと大賞をいただくことができました」と、生徒さんの受賞を喜んでおられました。

第六回 えむぞうくん健康漫画原作大賞

(502作品)

「第6回えむぞうくん健康漫画原作大賞」には、502作品の応募があり、佳作8作品、特別賞2作品、優秀賞3作品、大賞1作品が選ばれました。



健康漫画原作大賞 審査委員長 あさみさとる先生の講評 (漫画家)

今年もたくさんの作品を拝読しました。

応募作品のテーマも年々多様になってきていて、題材の中には私も初めて知ることがありました。そういう作品に出会えることが審査の楽しみでもあります。

大賞の「えむぞうくんキャンプへ行く」は、漫画に必要な起承転結がしっかりあるうえで、「伝えたいこと」のポイントがわかりやすく表現されています。「見落としがただけだけど大切なこと」という着眼点も良かったと思います。

優秀賞3作品のうちの一つ、「意外と知らない虫さされ」。「虫さされ」にもいろんなパターンがあるんですね。まさに「意外と知らない」ことですよね。漫画ならではの面白さに情報を織り交ぜて、上手に構成された作品だと思います。

2作品目の優秀賞、「献血でみんなを元気にするぞう」はテキスト作品です。献血をテーマにした作品はこれが初めてだったように思います(記憶違いだったらすみません)。テキストのみの作品はどうしても情報が先走って説明に終始してしまうことが多いのですが、「伝えたいこと」「伝えなくてはいけないこと」を絞ったところが良かったと思います。

3作品目の優秀賞、「救急車を呼ぶ? 呼ばない?」。この「#7119」のことは私も知りませんでした。救急車をタクシー代わりにする人がいるというニュースを耳にしますが、「救急車を呼んで良いのか?」と遠慮して手遅れになってしまうケースもあります。情報として「地域限定」であることがネックになってしまったのですが、知ってもらうことでこのサービスが全国区になってくれるといいなあと思いました。

毎年申し上げることですが、せっかくの漫画作品です。読んでくれる人に楽しんでもらえることが何よりも重要です。そのうえで、健康情報や知識を、さまざまな年代の人たちに知ってもらうというのが「健康サポーター えむぞうくん」の役目だと思います。今回選ばれた作品はどれもその趣旨にそったものだったと思います。

審査員・監修 榎本眞先生の講評

(NPO法人日本医学交流協会医療団顧問
元・聖マリアンナ医科大学教授)

私は、日本医学交流協会医療団の事業の一つである「ヘルスケアプランナー検定協会」の会長をやっております関係で、今回の審査委員の一人をつとめました。



おおつき こうき

大槻浩希さんのコメント

(専門学校デジタルアーツ仙台)

「えむぞうくんキャンプへ行く」

授業の中で作っていたので、まさか賞をいただけると思っていませんでした。とてもうれしいです。

過去の受賞作品を全部読んで、重複しないようなテーマを選びました。普段はあまり気にしていないことも、ちゃんと準備しようということを、読み手に伝えたいと考えました。でも、僕自身は健康のことをあまり気にしていないかもしれません。

漫画ですから、やはりオチをつけたいと思っていました。2ページしかないのでテンポは速くなりましたが、なんとか読みやすく、分りやすくオチまで作れたと思っています。今回の受賞作以外には、「インターネットの健康情報は全部鵜呑みにすると危ない」というようなテーマも考えていました。

僕は「マンガ・アニメ科」で学んでいますが、アニメを専門に勉強しています。えむぞうくんのアニメを作る際は、ぜひ声をかけてください。



健康漫画原作大賞受賞者と関係者の皆さん

この協会は、医者を除いた、医療に携わる方々の医学の知識、特に一般的な広い知識を得ていただくための協会です。この漫画を通じ、現在非常に関心の高い健康の意義、あるいは病気の原因、予防、そういったものを世の方々に易しくお伝えする、言い換えれば、感性に満ち、ユーモアや英知に満ちた漫画によって、それとなく知識を取り込んでいただく。そういった漫画が今回の受賞作になったと思っております。特に多くの応募のなかから受賞された方々の、ご努力と感性に深く感謝したいと思っております。

● 優秀賞

意外と知らない虫刺され
(京都芸術高等学校・櫻井遥さん)

献血でみんなを元気にするぞう
(大阪芸術大学・平山雅浩さん)

救急車を呼ぶ？ 呼ばない？
(大阪芸術大学・元橋賢彦さん)

● 審査委員長特別賞

しっかり寝よう
(大阪芸術大学・猿渡夏海さん)

● 審査委員特別賞

気をつけよう！ お薬の飲み直し!!
(九州産業大学付属九州高等学校・村上まやさん)

● 佳作

肩こりに要注意！
(アミューズメントメディア総合学院・桜兔月さん)

かわいい名前の悪魔・ピロリ菌
(大阪芸術大学・岩井亮太さん)

てんかんって何だろう？
(大阪芸術大学・岡田英子さん)

捻挫のケアだぞう
(専門学校穴吹デザインカレッジ・河野早貴さん)

足がつる隠れた理由
(館野史隆さん)

えむぞうくん 一つけ置き洗い編一
(専門学校デジタルアーツ東京・根本すみれさん)

えむぞうくんと正しい歯みがき
(専門学校東京デザイナー学院・橋田千賀子さん)

お風呂のアクマ
(名古屋総合デザイン専門学校・守屋綾乃さん)

第四回 えむぞうくん健康レシピ大賞

(776作品)

「第4回えむぞうくん健康レシピ大賞」には、昨年の443作品を大幅に上回る776作品もの応募があり、佳作4作品、特別賞2作品、優秀賞2作品、大賞1作品が選ばれました。



健康レシピ大賞 審査委員長 内野美恵先生の講評

(東京家政大学ヒューマンライフ支援センター講師)

今回は作品数も非常に多く、レベルも非常に高く、選考にはかなり苦心しました。最後は心苦しくなってしまう、こちらもいい、こちらもいいと悩んだのですが、最終的に残った作品は、「だれか」のために作っている、その「だれか」が、おじいちゃんやおばあちゃんや、おとうさんやおかあさんといった、顔の見える具体的な対象でした。そしてレシピの中に、作り手の人柄もありますが、食べる方の人柄が感じられるような、食べたときにどういう笑顔を見たいのかなということが伝わってくるような作品が、最終的に残ったのではないかと思います。もちろん栄養的にもすばらしく、また食材の工夫、調理法の工夫など、かなり専門家も顔負けの技術と工夫が凝らされています。

大賞の「お赤飯のとろろあんかけ」は、おじいちゃん、おばあちゃんでも食べられるようにという優しい気持ちと、蒸し物ですが見た目はオムレツのようで、箸をつけてみると中から赤米を使ったお赤飯が出てくるという、プレゼントをもらったようなサプライズがある作品です。とろみがかかっているのが食べやすく、普段の食事でもちょっとサプライズがあるとうれしいのではないかなということで選ばせていただきました。

優秀賞と大賞は、LEOC様のご厚意で作っていただいたということで、非常にうれしく思っています。

私も非常に勉強になりましたし、選考は大変でしたが、楽しい作業でもありました。

大賞

のむら いくみ

野村育未さんのコメント

(三重県立相可高等学校)

「お赤飯のとろろあんかけ」

まさか賞をいただけるとは思っていなかったもので、びっくりしました。

ささやかなお祝いがしたいけれど、難しい料理はできない……。そんなときに、簡単で、でも「おめでとう」という気持ちを表せる料理を創りたいと思い、伊勢の観光名物「赤福」をイメージして考えました。難しかったのは、お赤飯をとろろで包むこと。とろろがたれて、お赤飯が見えそうになるので、隠すのに苦労しました。

料理の楽しさは、お客様に自分が手をかけた料理を食べただけのことです。私は和食が好きで、料亭で出されるような料理は作れなくても、いつも自分の持てる技術を存分に活かせる料理を作るところがけています。3年間料理を勉強して、今回受賞することができて、本当に良い思い出になりました。



- 大賞 お赤飯のとろろあんかけ
野村 育未さん(三重県立相可高等学校)
- 優秀賞 すまし汁の茶巾絞り
榊原 穂香さん(愛知県立安城高等学校)
和風ガトーショコラ・クリームチーズ添え
中田 彩さん
- 特別賞 七色の手綱寿司 バルサミコソース
麻生 大輔さん(三重県立相可高等学校)
ヘルシーノンシュガーグレープおからのとり肉巻き
尾崎 泉さん
- 佳作 こころネギ味噌コロッケ
佐々木 由香里さん
家庭菜園で育った野菜で作った三種のおつまみ
福士 愛美さん(専門学校ビジョナリーアーツ)
里芋deきなこまんじゅう
宮田 明美さん
小松菜とバナナのスコーン
山口 菜緒美さん(郡山女子大学短期大学部)



健康レシピ大賞受賞者と関係者の皆さん